

愛媛県宇和島市津島町国永方言の立ち上げ詞

原 一浩

I はじめに

- ①調査対象地 津島町は愛媛県の西南部、宇和島市南部に位置し、東部は高知県宿毛市に接している。平成 17 年 8 月 1 日に宇和島市と合併した。合併前の津島町は面積 221.03 平方 km、人口 13,863 人、世帯 4,404 世帯の町で、地形は山林が 83.8 %、1000 メートル以上の山もある。また宇和海に面した複雑なリアス式海岸は、海岸線は約 90km にも及ぶ。調査地域の国永は、国道 56 号線の岩松から西に 6 キロほど入った海岸線の地域である。現在は過疎化が進んでおり、買い物や高等学校は岩松まで出ねばならない。このため、交通は主に自家用車に頼っている。
- ②調査年月日 平成 17 年 8 月 12 日 13 時から 16 時まで。
- ②話者 脇坂 庄一郎
大正 15 年 8 月 11 日、満 79 歳。
- ④調査者・調査場所 原一浩・話者自宅(愛媛県宇和島市津島町国永)
- ⑤調査方法 統一調査表による質問調査。
- ⑥その他 ①アクセントは、棒引きアクセント。高さの山に棒を引く。
②必ずしも統一質問文の通りでなくても、回答された文例はなるべく多くを掲げることにした。話者のコメント、調査者の気づきはくゝ内に記した。アクセントは上線で記す。

II 調査結果

I、自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」

(1) どっこいしょ。一休みしよう。

○ドッコイシヨ。どっこいしょ。(一休みしようまでは、言わない。)

○ヤートセエー。よいしょ。(腰を下ろして一休みするときの、かけ声として言う)

(2) どうれ。出かけることにしよう。

○ドーレ マダヤルカ。どーれ、またやるか。

○サア デカケルカ。さあ、でかけるか。

(3) よいこらしよ。とうとう山の天辺に着いた。

○ヨイドショー。トートー ヤマノテッペンニツイター。よいしょー。とうとう、山の天辺に着いた。

(4) しまった。もうちょっとで落ちるところだった!

○シモター。モウチヨットデ オチルトコ ジャッタデスチ。しまった。もうちょっとで、落ちるところだった。

(5) くわばらくわばら。恐ろしかった!

○ヨカッター。よかったな。

○コワカッター。怖かったな。

○タマゲター。たまげたあ。

〈くわばらに相当する言い方は無い。〉

(6) しめた! 今度の魚は大きいぞ。

○ヤッター。コノ サカナワ フトイソ。やったあ。この魚は大きいぞ。

○ヤッター。コノ サカナワ オオケナゾ。やったあ。この魚は大きいぞ。

(7) ままよ。飛び越えるしかない。

○コリヤ コマッター。デモ イッテミルカ。こりゃあ、困ったなあ。でも行ってみるか。

(8) なにくそ! 負けてなるものか。

○ヨーシ。マケンゾー。よーし、負けんぞ。

(9) しめしめ! 誰も気がついていない。

○シメター。ダレモオランノー。しめた。誰もいないぞ。

(10) ちえっ。つまらないなあ。

○チェッ。コマッター。ちえっ。困ったなあ。〈舌を鳴らして言う。〉

(11) ちくしょう! 仕返しをしてやる。

○オボエトケー。シカエシ シテヤルゾー。覚えとけ。仕返ししてやるぞ。

(12) くそっ! 覚えている!

○マタオボエトケー。マタ ヤッチャルゾー。また覚えている。また、やってやるぞ。

(13) おやおや、いったいどうしたの。

○オー 下シタンゾー。おー、どうしたの。。

○オー ドガイシタンゾー。おー、どうしたの。

(14) えへん、えへん。吾輩は村一番の力持ちじゃ。

〈該当する言い方がない〉

(15) はてな、ここはどこだろう?

○アレー ドーナツトンカチー。あれえ。どうなっているのかな。〈ここはどこだろうという気持ちで〉

Ⅱ、他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

(16) はい、承知いたしました。

○ハイ ワカリマシター。はい、わかりました。

(17) はい。宜しゅうございます。

○ハイ エーデスヨ。はい、いいですよ。

(18) ええ、ここに居ます。

○ハイ ココニ オルゼー。はい、ここに居るよ。

(19) んだ。私の傘です。

○ウン ワシノカサヨ。うん、わしの傘よ。

(20) さよう、さよう。あなたの言う通り。

○ソーソー アンタノ ユートーリヨ。そうそう、あんたの言う通りよ。

(21) ほいきた。おやすいご用です。

○ヨッシャー オヤスイ ゴヨーデスブ。よっしゃー。お安いご用ですの。

(22) よっしゃ。やりましょう。

○ヨッシャー シマシヨ。よし、やりましょう。

(23) よしきた。お引き受けいたしましょう。

○ヨッシャー マカシトケ。よし、任せておけ。

(24) がってんだ。一緒に行きましょう。

○ヨッシ イッシヨニ イコカ。よし、いっしょに行こうか。

(25) かつぱのへだ。簡単だ。

○ソソナモノ ヘノカッパヨ。

(26) いえいえ、とんでもございません。

○イーエ ワタシノ キモチデスヨ。いえ、わたしの気持ちですよ。

(27) なんの、たいしたことではございません。

○チーノ ダイシタコトハ ナイゼ。なに、たいしたことではありません。

(28) なあに、擦り傷(すりきず)ぐらい、すぐ治るさ。

○チーニ スグナオルヨ。なに、すぐ治るよ。

(29) なにさ、いつも調子の良いことばかり言って!

○ナンゾ イツモチョーシノ エーコト バカリ ユーデ。なんだ。いつも調子のいいことばかり言って。

(30) いやはや、とんだ目に遭(あ)いました。

○イヤー トンダヌニ オータチー。いや、とんだ目に遭ったなあ。

(31)へん、勝手にしやがれ。

○オー カッテニ セーヨ。おー、勝手にしろ。

(32)なめるんじゃねえよ。こいつ!

○ナヌルンジャ チイヨ。なめるんじゃ、ないよ。

(33)冗談じゃない。口から出任せを言って!

○ジョーダンジャチイ オマエノ ツゴーノ エーヨーニ ユーテ。冗談じゃない。
お前の都合のいいように言って。

(34)だまらっしゃい。出鱈目(でたらめ)ばかり言って!

○ダマツトケ テタラメ ユーテ。黙っておけ。でたらめばかり言って。

(35)そうは問屋がおろさねえ。黙ってられねえ。

○ソーク トンヤガ オロサンゾー ダマツテオラレルカ。そうは、問屋がおろさんぞ。黙ってられるか。

(36)うそもへちまもありやしねえ。我慢(がまん)できねえ。

○ウソモヘチマモ アリヤセン ガマンデキンゾー。うそも、へちまも、ありゃせん。がまんできんぞ。

(37)寝言は寝ていえ。このやろう。

○ネゴトワ ネテイエー コノバカヤロー。寝言は寝て言え。この馬鹿野郎。

(38)あたりきしやりきのけつ(けつ)のあな。当たり前だ!

○ソリヤー アタマリエダー。そりゃあ、あたりまえだ。

(39)きみょうきてれつだ。それは変だ。

○ソリヤー ホントカ。そりゃあ、本当か。

(40)ほほう、それは親孝行なお子さんですね。

○オーツト ロッシャー。それは、すごい。(自分の想定外のことが起こった場合、この地方の決まり文句として言う。この文脈では、「それはすごい」の意味で使い、その後の語は省略される。)

(41)まいったまいった。しかたがない。

○コラエテヤー。もう、こらえてほしいけど、しかたがない。(あきらめの意味でも使う。)

Ⅲ、他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」

(42)もしもし、すみません。役場はどこにありますか。

○チョット スイマセケド。ヤクバワ 下コデスカ。ちょっと、すみません。役場はどこですか。

(43)のうのう、旅の人。お立ち寄り下さい。

○チヨット。コレコレ。ヨッテ イキンサイ。ちょっと、寄って行きなさい。

(44)ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。

○ホリヤー ミテミヨ一。ほら、見てみなさい。

(45)やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ？

○コラコラ コガイニ アサ ハヨ一カラ ドコインクソ。おいおい。こんな朝早くから、どこに行くのだ。

(46)よう、兄弟。これから何をするつもりだい？

○ドガイゾナー コレカラ チニスルンゾ一。「兄弟」という呼びかけに該当する言葉はない。」

(47)いざ、さらば。

○マタチ一。またね。「とくに気取った語はない。」

(48)ささ、ご遠慮無く、召し上がって下さい。

○ドーソ ドーソ エンリヨナシニ。どうぞ、どうぞ、遠慮なしに。

(49)さて、そろそろ一服しませんか。

○サー イップクスルヲ。さあ、一服しようや。

(50)これこれ、ちょっと静かにしなさい。

○コリヤコリヤ シズカニセヨ一。これこれ、静かにしろよ。

(51)おい、こら。万引きをすてはいけない。

○オイ コリヤー マンビキシダラ イケンゾ一。おい、こら。万引きをしたらいけないぞ。

(52)おどりゃあ。いい加減にしないか！

○オドレラ エーカゲンニセンカ。お前ら、いいかげんにせんか。

(53)おのれ、裏切りやがったな。

○オドレ ダマシャーガッタア一シ。おのれ、だましたな。

(54)どっこい。その手には乗らない。

〈該当する言い方が無い。〉

(55)どうだ、参ったか？

○ドーソ マイツカ。どうだ、参ったか。

(56)せいの、よいしょ！

○セエ一ア ヨイショ。せえ一の、よいしょ。

(57)ようい、どん！

○ヨ一イ ドン。よーい、どん。

(58)いっせいの、で！

○セエ一ア ハイ。せ一の。はい。

(59) よいしょ、よいしょ、もう一息だ!

○ヨイショ ヨイショ モー ヒトイキア。よいしょ、よいしょ、もう一息だぞ。

(60) うんとこしょ、どっこいしょ。もう少しだ。

○ヨイショ コラショ モースコシダ。よいしょ、こらしょ。もう少しだ。

(61) わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。

○ワッショイ ワッショイ。わっしょい。わっしょい。〈「祭りだ」は、間に入れない。〉

(62) はじめはぐう、じゃんけん、ぼん! あいこでしょ。

○ジャン ケン ボン。じゃんけんぼん。〈若い人の間では「最初はぐう」というが、年配者では言わない。〉

(63) きをつけえ、まえへならえ、なおい。

○キヲツケー マイエーナラエ ナオレ。気をつけ、前ならえ、直れ。

(64) きりつ、れい、ちゃくせき。

○キリツー レイ チャクセキ。起立、礼、着席。〈アクセントがない。〉

(65) ばんざい、ばんざい。やった、やった!

○ヤッター ヤッター。やった、やった。〈アクセントがない。〉

(66) えいえいおう。頑張るぞ。

○エイエイオー。えいえい、おー。〈「頑張るぞ」の部分は省略される。若い人は言うが、自分は言わない。〉

(67) 中村君の誕生日を祝して、かんぱい。おめでとう。

○カンパーイ オメドトー。乾杯、おめでとう。〈アクセントがない〉

(68) やっほう、やっほう。

○ヤッホー ヤッホー。やっほー、やっほー。

(69) ふれえ、ふれえ、白組。

○フレー フレー シーロ。フレイ、フレイ、白組。〈「組」は省略される。〉

(70) おにはそと、ふくはうち。

○オニワースト フクワウチ。鬼は外、福は内。

(71) べらぼうめ、とんでも無い子だ。」

○アホタレ。あほう。〈この一語で使われる。〉

(72) それみたことか、わんぱく坊主。

○アレミタカー コノガキヤ。それみたことか。この餓鬼は。

(73) ざまあ、みろ。いい気味だ。

○ザマミー エーキビヨ。ざまあ、見ろ。いい気味だ。

(74) ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。

○ガイナコトオ ユー。ひどいことを言う。〈「ちくしょうめ」に該当する語は言わない。「ガイナコト」は、ひどいことの意味〉

(75)このやろう。どうしてくれようか。

○コイツワー。こいつは。〈後の「どうしてくれよう」まで、言わない。〉

(76)たわけ、ふざけた事を言うんじゃない。

○コノ ネタバゲー ソイダコトユーナ。この寝とぼけが、そんなことを言うな。

(77)ばかやろう、いい加減なことを言うな。

○バカヤロー エーガゲンナコト ユーナ。馬鹿野郎、いい加減なことを言うな。

(78)あなかま、静かにしなさい。

○シズカニセンカ。静かにせんか。

(79)しいっ、静かにして!

○シー シズカニ。しいっ、静かに。

(80)ちちんぷぶい、蛙、蛙、生き返れ。

○チチンブイブイ カエル イキカエレ。ちちんぷいぶい、蛙、生き返れ。

(81)あっかんべい、鬼さん、こちら。

○アカベ。

(82)あっぱれ、お見事。立派です。

○ヨー エライノー。よう、えらいなあ。

(83)でかした、でかした。日本一。

○ヤッタヤッタ。ニッポンイチ。やった、やった、日本一。

(84)しっけい! すみません。

○シツレー スイマセン。失礼、すみません。

(85)あばよ、達者でな。

○ホンジャンナー。ほいじゃーね。

Ⅲ 総括 (まとめ)

1 共通語との違い

津島町国永方言は、共通語と比較して次のような違いが見られた。その違いは、次の3種類に分けることができる。

① 独自の立ち上げ詞を使用しているもの

(1) どっこいしょ→ヤットセエー

(3) よいこらしょ→ヨイドショー

- (40) ほほう→オートロッシャー
- ② 共通語の立ち上げ詞の語尾が変化し長音化しているもの
- (4) しまった→シモター
- (9) しめしめ→シメター
- (73) ざまあ、みろ→ザマミー
- (75) このやろう→コイツワー
- (81) あっかんべい→アカバー
- ③ 共通語と意味概念が異なるもの
- (41) まいったまいった→コラエテヤー
- (46) よう、兄弟→ドガイゾナー（「よう、兄弟」という呼びかけに該当することばがなく、「どうだ」という様子をうかがう言葉で呼びかける。）

2 おわりに

今回の調査では、(5) (14) (54)については、該当する言い方がないと、用例を得ることができなかった。もっと長時間、自然な発話を待てば、あるいは用例が得られた可能性がある。また、立ち上げ詞の語尾に終助詞「ぞ」が用いられている用例が、(29) (55)と二つあった。終助詞「ぞ」は、(13) (36) (46)の用例にあるように、この地域で多く用いられる終助詞である。

最後に、今回の調査において、津島町国永方言の特徴として、次の二点を上げておきたい。

- 「Ⅱ 他者の発話に呼応して応答の発話を立ち上げる」立ち上げ詞は、(40) (41)を除くと共通語と大きな差異は認められないこと。
- 立ち上げ詞は、語尾が省略されて長音化する傾向があること。

以上の二点は、全国調査の結果と比較して、どのような傾向になっているのかを分析することによって、本地域の特徴がより明らかになるものと考えられる。また、本地域は、対岸の大分県との間で、昔から人の行き来が多いところである。したがって、九州の東岸地域との比較も、たいへん興味深い視点である。今後の課題としたい。

(はら かずひろ 広島県立賀茂北高等学校)